

平成27年度博物館実習展アンケート分析結果に関する報告

平成27年度関西大学博物館実習展では、博物館実習履修者により「秋彩」「地獄」「光の二百年」「旅人のすがた」の4つのテーマについて展示が行われた。本調査では各展示及び本実習展全体の評価について分析・検討することを目的とする。

【調査方法】

平成27年度関西大学博物館実習展の来館者を対象に、会場である関西大学博物館第2展示室において、2015年11月8日から同年11月16日までの6日間実施した。

用紙の配布と回収は展示室入口で行われた。配布の際、来館者へはアンケートの回答は任意であることを伝えた。その後クリップボードに挟んだ用紙と鉛筆を手渡し、展示室内で回答を求めた。

【来館者の構成について】

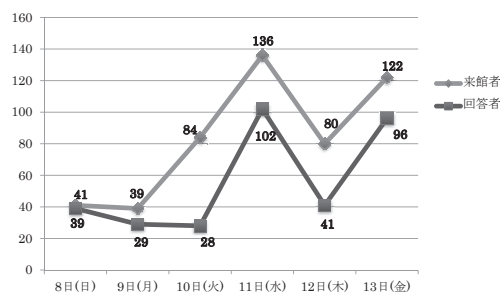


図1 来館者数及び回答者数の推移

総来館者502名うち、回答者は335名であった。

来館者数は11日(水)と13日(金)は授業の一環で訪れた本学学生が集中したため、突出した来館者数となっている。

性別の内訳は、男性114名、女性217名、無

回答4名であった。

年齢についての選択肢を「10代以下」「10代」「20代」「30代」「40代」「50代」「60代」「70代」「80代以上」として調査したところ、10代が約4割、20代が3割と10代から20代がほぼ半数以上を占めた。(図2)

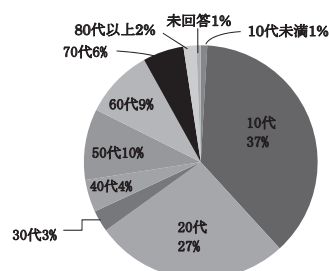


図2 回答者の年代別内訳 (335名)

回答者の所属の選択肢を「一般」「本学学生」「本学以外の学生」「本学関係者」「小学生」「中学生」「高校生」「その他」として調査した。本学学生が全体の約47%を占めた。(図3)

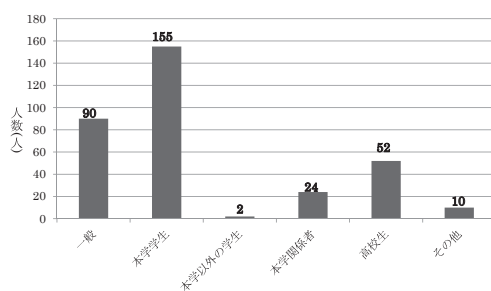


図3 回答者の所属別内訳 (333名)

住所、居住地域については約49%が「大阪府」であった。そのうち「吹田市」は約21%であった。また、近畿地方以外の地域（その他）では三重県、岐阜県、静岡県、神奈川県などがあげられた。(図4)

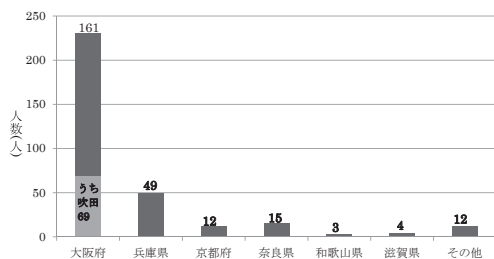


図4 回答者の住所別内訳 (325名)

今回の実習展の情報の認知経路は、37%が「授業」であり最も多い割合であった。次に「友人・知人」が28%という順になった。また、「その他」では子供・家族、吹田市報などの回答が見られた。(図5)

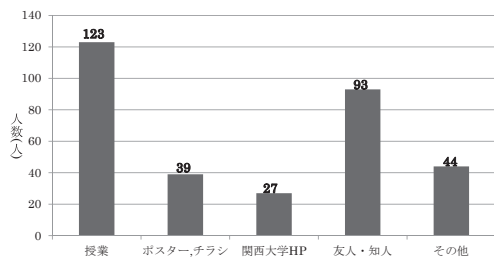


図5 認知別の内訳 (326名)

日常生活における博物館・美術館等の利用頻度について調査した。それによると年に1回という回答が49%と最も多く見られた。また来館者による手書きで「博物館の関係者」「行かない」などの回答が見受けられた。(図6)

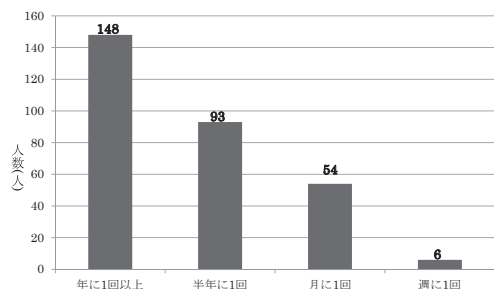


図6 博物館・美術館等の利用頻度別の内訳 (301名)

関西大学博物館への来館者数は44%の「初

めて」が最も多い値となった。(図7)

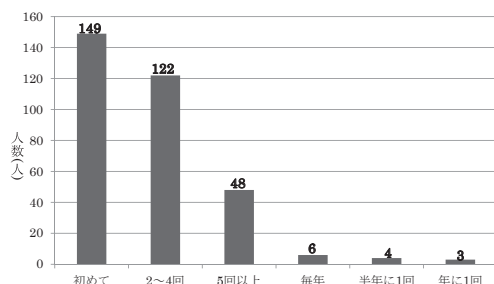


図7 来館回数別の内訳 (332名)

【考察】

今年度の実習展の来館者数は、授業の一環で訪れた日とそうでない日によって人数の差が見られた。それに伴い認知度の方でも授業という回答が最も大きい割合を占める結果となった。また友人・知人のコネクションによる認知数には昨年度と大きな変化は見られないが、その他の回答から吹田市報で知ったなどの意見があった。したがって学内に限定されない学外PRでも誘客効果の可能性が少なからずあると感じられた。

普段の博物館・美術館への利用頻度の設問に関しては、「行かない」や「行ったことがない」などの選択肢を設けなかった。そのため、それに該当する来館者は未回答や手書きなどの方法で残っていた。このような不十分さを招かないためにも、アンケート作成時には来館者の立場にたって多くの方に回答していただけるように入念に内容を確認する必要がある。

今回のアンケートは表裏両面の印刷で作成した。その理由から「裏面に続きます」という注意書きを用紙の右下に施した。ところが集計中回答されたアンケートの中には表面だけが回答済みで、一方裏面は未回答というケースが頻繁に見られた。この反省から、当日の受付で来館者にアンケートを渡す際、「アンケートは裏表印刷となっています」と一言添

える徹底の必要性があったと感じた。

(文13-662 宮本秀幸)

あきさい
秋彩 紅葉と落葉の色めぐり

【要約】

展示の内容、見やすさ、解説、雰囲気についてはおおむね4以上の評価を得られ、展示によって秋の色の移り変わりを感じられた人も多いように見える。しかしながら内容で14%、見やすさで14%、解説で20%、雰囲気で12%が3以下の評価となっている点や、展示を通じて秋の色の移り変わりを感じられたかという質問に対して11名の方が感じられなかったと回答しているのは見過ごすことができない。自由記述では、「会津塗丸盆「山茶花」が非常に落ち着いていて、「秋」というテーマにはとてもあっていると思った。」という展示に関する感想や、「学生の展示解説が分かりやすかった。」と評価する感想も多かったが、「アンケートの字が読みにくいのでもう少し大きい方が良いと思う。」といった配慮が行き届いていなかったことを反省させられる指摘もあり、「秋彩の章の上部空間を活用してもいいと思う。」という展示設計における指摘もあった。

【方法】

全体の共通項目として展示の内容、見やすさ、解説、雰囲気について5段階での評価を求め、その他に班別で選択型の質問と自由記述型の質問を用意した。

【結果】

[1] 共通項目について

1. 展示の内容について、2. 展示の見やすさについて、3. 展示の解説について、4. 展示全体の雰囲気について

点数として、5：とても良い、4：やや良い、3：普通、2：やや悪い、1：悪い

[2] 班別選択型設問について

秋の色の移り変わりをこの展示を通して感じることができましたか。

1. はい、2. いいえ

質問 \ 点数	5	4	3	2	1	合計	平均
内容	160	122	43	2	0	327	4.3
見やすさ	170	115	45	2	0	332	4.4
解説	146	109	57	9	0	321	4.2
雰囲気	178	104	35	2	0	319	4.4
秋の色の移り変わりを 感じられたか	はい	302		いいえ	11	313	

[3] 班別自由記述欄の内容

- 当時の色と現代の色の違い。
- 説明が分かりやすかった。
- 緋色について、言葉としては知っていたが実際の色は知らなかった。秋から冬を感じながら展示品を見られてよかった。
- 朽ちる秋、見応えがあった。
- 臙脂色の漢字や由来が知れてよかった。玉虫色の光沢が綺麗だと感じた。
- 塗りの深い赤が印象的だった。
- 伊勢物語の本が印象的だった。自分で色をつけたというのが印象的だった。
- 秋の色がたくさんあり名前があることが知れてよかった。
- 「赤」と一言と言っても様々な種類があるのだと感じました。
- 秋の色はどれも印象に残り、目と心の栄養源になった。
- 色彩についての解説が分かりやすかった。普段目にしない色について知ることができて勉強になった。
- 色に着目して展示を行っているのは良い着眼点だが、色にこだわるばかりに展示物の作者の意図とは異なる展示になっているのは良くないと思う。
- 展示物から季節感が伝わってきた。
- 17名の人たちの掛け軸が興味深かったです。
- 「秋彩」というタイトルなので「The month of Japanese Children Calendar for 1904」というアルファベットのタイトルが出てきて驚いた。英語教育に使われていたという説明が大変よく記憶に残った。
- 季節に合っていて良かった。日本の色彩の美しさを取り扱っていて素敵だった。
- 学生の展示解説が分かりやすかった。
- 「ちりめん本」にびっくりした。「合作紅葉図」はさかなければ素通りしただろう。
- 会津塗丸盆「山茶花」に興味をもち、歴史的展示品としてだけでなく、アートの1つとしても面白い。
- 緋色→「思いの色」というのがステキ。
- 古文紹介の展示は現代文もあればわかりやすいのでは。
- 心にしみじみ感じた。
- 絵の具、顔料、染料の作り方なども知りたかった。
- 色が平安時代と今の時代とでは色味が違うということが印象的だった。
- 秋彩の章の上部空間を活用してもいいと思う。
- 会津塗丸盆「山茶花」が非常に落ち着いていて、「秋」というテーマにはとてもあっていると思った。
- 玉虫塗硯箱の静かな赤色が見ていて落ち着いていて印象的だった。
- 会津塗丸盆「山茶花」に興味を持った。黒い漆に山茶花が生えていて綺麗だった。
- 唐紅色が大変高価な色だったということに驚いた。
- 紅葉五色絵図の一枚一枚の効用の色が違っていて綺麗だった。伊勢物語のような授業で習った

書物を目にして状態の良さに感動した。

- 紅葉五色絵図に描かれた紅葉が青から緋色へうつりゆくのが綺麗だった。
- 合作というスタイルをあまり見かけることが無く印象的だった。
- 唐紅が鮮やかだった。
- 大樋焼楽焼茶碗の深みのあるあめ色が良かった。
- 自分自身がカルタをやっていて「ちはやふる」の歌に惹かれたので、伊勢物語に興味を持った。
- 先日京都国立博物館に行って琳派展を見たので「光琳印譜」を見られてよかった。
- 唐紅色が在原業平の歌にも読まれていてどんな色か知りたかったので知れてよかった。
- 玉虫塗硯箱がなんだか見たことあるような色なので印象に残った。
- 私は風流な人ではないので、秋を感じられなかった。ちりめん本がとても欲しい。
- 臙脂色に対するイメージが変わった説明だったので印象に残った。
- 森一鳳の山茶花之図、楓之図が繊細で写実的な画像で強く印象に残った。
- 大樋焼楽焼茶碗の解説が良い。「今まさに土に返ろうとする…」
- 以前、米国に住んでいたが秋のメープルの紅葉は鮮やかだが真赤と黄色だけでグラデーションが無く日本の紅葉の方がずっと良いと展示を見て感じた。
- 詩歌集、巻物は文字が書いてある表に目が行きがちだが、裏に綺麗な紅葉の模様が描いてあって目の付け所が素敵。
- 光琳の印譜が遊び心を感じる面白い作品だった。
- 解説が分かりやすかった。
- アンケートの字が読みにくいのでもう少し大きい方が良いと思う。
- 紅葉の掛け軸を見ていて日本人はいつの世も紅葉がすきなのだなと思った
- 玉虫塗金胎花瓶が不思議な色合いで惹きつけられた。
- 朽葉色に魅了され、時の移ろいを思い起こさせるような「気」を感じた。
- 昔の色の表現にはとても多くの表現があり、それが色見本で示され、どんな風にどんな思いを込めて使われたかが展示されていて「愛」を感じた。色に託した思いが伝わって

【考察】

本展示において、共通項目の評価についてはおおむね高評価をいただけたと思う。また、自由記述欄では、会津塗丸盆「山茶花」やちりめん本について書かれたものが多く人気であったことが伺える。最も反響が大きかった色は緋色で緋色の和歌の中での意味についてロマンティックだと思ふ来館者が多いようだった。この展示のコンセプトである、展示を通して秋の色の移り変わりを来館者に感じさせることが出来たと思われるため、展示は一定の成果を挙げられたと考えられる。

(文12-242 小池奏一郎)

地 獄

【要約】

展示の内容、見やすさ、解説、雰囲気について尋ねたところ、どの項目を通して「とても良い」「やや良い」の評価を半数以上獲得している。ところが一方で「普通」「やや悪い」の評価も一部に見られた。特に「展示の見やすさ」に関して10人以上が「やや悪い」を回答しているため、少なからず全体が高評価だったとは断定しがたい結果となった。

【方法】

全体の展示の共通項目として、「内容」、「見やすさ」、「解説」、「全体の雰囲気」に関して、5段階での評価を来館者に求めた。また班の個別項目として、「普段の死後の世界に対する考えの有無」、自由記述には「地獄のイメージについて展示を観覧する前後の変化」を問う設問を設けた。

【結果】

[1] 共通質問項目について

1. 展示の内容について 2. 展示の見やすさについて 3. 展示の解説について 4. 展示全体の雰囲気について

5：とても良い 4：やや良い 3：普通 2：やや悪い 1：悪い

質問 \ 点数	5	4	3	2	1	合計	平均値
内容	115人	91人	29人	7人	0人	242人	4.29
見やすさ	90人	84人	37人	13人	0人	224人	4.12
解説	100人	80人	45人	8人	1人	234人	4.15
雰囲気	99人	100人	36人	5人	0人	240人	4.22

[2] 班個別の設問

班別設問「普段、死後の世界について考えたことはありますか。」

はい	159人
いいえ	72人

[3] 自由記述欄の内容について

自由記述「今まで目に見えない地獄に対してどのようなイメージを持っていましたか。またこの展示を通してどのような変化がありましたか」に対する様々な回答（一部抜粋）。

また自由記述のスペースがこの項目しかなかったため、班の展示全体に関する意見も見られた。

- 地獄への興味、関心が昔も今も変わらないのだなと感じました。
- 熊野比丘尼がどのような人物であるか気になった。
- 元々地獄などの民俗学、宗教学的要素に興味があり、自分でも勉強したいので興味深く見させていただきました。
- 地獄に関する資料が多く残っていることに驚きました。
- 邪悪なイメージであったが、展示を見た後もっと怖くなった。
- 恐ろしいところだと感じた。
- 地獄は地獄で世界があることがわかった。
- アニメで見たときはとても楽しいイメージでした。
- 鬼灯の冷徹がとても好きで、楽しそうなイメージを持っていたのですが昔の絵を見るとなかなか恐ろしい場所だと思いました。
- 人が生きているときに苦しいと感じるところを地獄だと思っています。
- 図解仏教大辞典のようなもののかつて読んだとき地獄の種類が沢山あることを知った。
- 漫画があることを知らなかったので、読んでみようと思った。
- 理不尽だなと感じました。
- ただ恐ろしい場所。変化は特になかったです。
- 怖いイメージ。種類が136もあると知って、大半の人は極楽浄土に行けない気がした。
- 今まで、ただ一人の怖そうな人がいると思っていたが、色んな役職のようなものがあることに驚いた。
- とても面白いと思った。地獄絵のことをもっと知りたいと思った。
- 地獄は舌を抜かれるイメージであったが、鬼灯の冷徹によって、地獄が身近に感じた。
- そう簡単に地獄という言葉が発しないように思いました。
- 初めてのことなので勉強になりました。
- 恐ろしい、特に変わらない。
- 人間によって作り出されたものであることが分かった。
- 熊野、中山寺の温泉の宝印から現世の人々が地獄の存在、神仏の存在を強く信じるあり方がよくわかりました。
- 怖いイメージでした。地獄には約130種類があると知って驚きました。絵も少し怖かったです。
- 「地獄」行くのが嫌ならば、良い行動をして念仏を唱えるという自己啓発がたくさんあり面白かった。
- 西洋的なイメージが強かったので、昔の日本人の地獄に触れられて良かった。
- 幼いころ、地獄はよくわからない恐ろしいところと曖昧に考えていたが、展示を見てからは創作、文化としての地獄は面白いと思った。
- 生前の行為のしっぺ返しを受ける場所、信仰を与えるための1つのツールと考えていたが、宗教観が関連した概念にも感じられた。
- 「地獄」とは炎の中に包まれているイメージをもっていた。しかし餓鬼道の説明で食べ物に炎になると聞いて、恐ろしいイメージを抱いた。
- 今まで地獄は、娯楽の対象などの世界でしかないと思っていたが、日本人の中に脈々と受け継

がれている身近な世界なのだと知った。

- 地獄はただ恐ろしい場所だというイメージであったが、様々な作品に用いられるなど、恐れながらもどこか魅かれる部分があると感じた。
- 閻魔様がいて、生前の罪を裁かれることが分かった。
- 地獄に対しては「火」のイメージが強かったが、展示を通して、火に限らず様々な呵責があることを知った。
- 怖いイメージでした。
- 常に働かされるイメージ。変化は特にはない。
- 今まででは犯罪をすると地獄に落ちそうなイメージがあったが、昔の罪の幅はとても広いことがわかった。
- 絵本やアニメでよくみられるイメージを持っていた。温泉寺や中山寺の札、宝印等をみて庶民の信仰の対象になっていたことがわかった。
- 怖い所というイメージでしたが、多少の救済もあるのかなと思いました。
- 悪いことをした人が行くイメージであったが、展示を通して細かな地獄の枝分かれを知ることが出来た。
- 針山・血の池地獄としてのイメージでした。展示を通して細かく歴史をたどると色々なことがあると分かった。
- 暗くて不気味なイメージがあった。
- 地獄のイメージは思っていた通り、怖いところなのだと思います。
- 地獄の多様性が感じられた。
- 血の地獄は比較的新しくできた地獄だと知って驚きました。
- 地獄に対して具体的なイメージをあまり持っていなかったのが、八大地獄のことを知れて、より恐ろしい所だと思うようになった。
- シビアなイメージを持っていました。六道に興味があったので、それを深めることができて良かったです。
- 「地獄」という概念が昔から根付いていたことが分かりました。
- 怖いイメージのままでした。
- 地獄は恐ろしいものとイメージを持っていました。展示を通して、恐ろしさの中に色彩の鮮やかさがあり、様々な解説があるのだと感じました。
- 自分の行動を正しくしようと思いました。
- 死後の世界を身近に感じられる展示だったと思いました。

○展示について

- 地獄の世界をビジュアル化するのはとても分かりやすい手法であった。現代にも繋がるという示し方をするのもっとよかったと思う。
- ごあいさつのポスターが少し過度に詰め込んでいる箇所がある。解説の文字が小さい。
- ただ暗いだけでなく、地獄ならではの華やか・地獄と天国を両方展示していることで、双方の違いを明確にできるところがよかった。

- 展示品も多くて、見ていてとても面白かったです。
- 実習生の説明が悪く残念に思いました。
- 解説が少し難しかったです。
- 男性の方で、大変丁寧に解説してくださって、分かりやすかったです。
- 文字が小さい。
- 地獄の展示の中で何がポイントなのか分からなかった。
- 絵で表現されているものが多く、一目で分かるのがよかった。

【考察】

共通項目については全ての平均値が4以上とおおむね評価が高かったと考えられる。自由記述においては、全体的に地獄に対する恐怖や理解が深まったなどの回答が多く得られた。したがって来館者が日常生活で抱いている地獄の固定観念を、この展示を通して改めて考える機会にもなったと解釈することができる。また展示した作品の中で漫画『鬼灯の冷徹』に関心を示す来館者の意見も多く見られた。

班別設問の「普段における死後の世界の考えの有無」に対して、全体の7割以上が死後の世界について考えたことがある結果が得られた。地獄は実際に目に見えない世界であるため、少なくとも老若男女問わず関心がある分野だということが得られた。

一方で展示全体に関して、文字の大きさや解説の不十分さが意見として見受けられた。解説については実習展当日まで入念に練習ができなかったことが一つの要因として考えられる。またこのテーマを選んだ動機や主題の不明確さなどにも指摘を受けた。このような来館者がもつストレスを減らすために、展示を見せる側は来館者の主観に立って考える必要性があった。またそこから、より快適でショーマンシップを忘れない展示を来館者に提供するべきであると感じた。

(文13-662 宮本秀幸)

光の二百年 ～あかりと歩む日本人～

【要約】

展示内容、見やすさ、解説など、すべての項目において3以上の評価が多かった。しかし、2や1の回答をした観覧者もゼロではないので、その点は反省しなければならない。自由記述欄では、模型展示や光の年表などでは高評価をいただいた。一方で展示方法の改善や、より詳しい解説の要求もみられる。また、自由記述欄の空白が少なくなかった。もう少し観覧者の印象に残る展示にする必要があったのかもしれない。

【方法】

展示の内容、見やすさ、解説、全体の雰囲気の4つの全班共通項目と、日本のあかりについての理解と模型展示のわかりやすさの班独自の2項目について、5段階での回答を求めた。また、自由記述欄には、一番印象に残った展示とその理由を書いてもらうように求めた。

【結果】

① 5段階での回答について

5：とても良い 4：やや良い 3：普通 2：やや悪い 1：悪い

下の表を参照。なお、アンケート335枚のうち、92枚はあかり班の項目がすべて空白であったため、243枚の有効票から表を作成した。また、合計の枚数が足りないところがある。これは、その項目だけ丸がついていないという状態のアンケートがあったからである。

表 あかり班の観覧者評価（5段階）

質問 \ 点数	5	4	3	2	1	合計	平均値
内容	128人	89人	24人	2人	0人	243人	4.26
見やすさ	125人	92人	22人	3人	1人	243人	4.20
解説	120人	76人	43人	4人	0人	243人	4.10
雰囲気	123人	87人	24人	4人	0人	238人	4.22
	日本のあかりについて						
理解	121人	93人	22人	3人	0人	239人	4.17
模型	163人	52人	18人	1人	1人	235人	4.43

② 班別自由記述の内容

◇印象に残った展示

《模型》

- わかりやすい。

- 自然とともに生きることが光と大きく関係していたと思った。今の光の世界からは考えられない。
- 行灯がこんなに暗いとは思わなかった。
- 箱をのぞくのが楽しかった。
- 現代の光が異常に明るいことを知った。昔の明るさでは暮らせる自信がない。
- 視覚展示ばかりだったので、体感的な展示は印象に残りやすかった。
- 灯明1つでの明るさと今の電球1つの明るさの範囲がわかりやすかった。先人のいろいろな工夫が今につながっている。
- イメージしやすかった。
- 谷崎潤一郎の『陰翳礼賛』を思い出した。日本の近代化とあかりの明るさは比例しているが、それ以前はこの暗さが日本の文化を育んできた。最近はLEDが増えてケバケバしい照明が増えた。ろうそくの灯を見るとほっとする時がある。
- パネルだけでは分からない「明るさ」を体感できた。
- 昔の夜の暗さから、いろいろな物語や“おそろしい者達”が生まれたのだと強く感じた。

《無尽燈》

- 仕組みが興味深い。
- オシャレで近代的だった。
- はじめて知った。
- いちいち燃料を補給する手間がなく、小ろうそくの10倍の明るさというところが画期的ですごい。

《有明行燈》

- あかりをとると同時に風流（季節のうつろい等）を大切にする日本人の美意識が感じられた。
- 名前の由来に「粋」「趣」を感じた。
- 初めて見たので印象に残っている。
- 名前の由来が有明の月からというのが行燈の見た目にもつながっているのだと分かりやすかった。
- 月の模様がすてきだった。

《ランプ類》

- デザインやびみょうな金属のさび具合に目が行った。
- たくさんあって面白い。
- 現在ではそのような形のランプを見たことがない。
- 吊りランプをつる時に、ランプが燃えていたら、ひもを持つのは熱そう。
- ガラスのランプがきれいだった。
- ランプの歴史（技巧）がよく分かった。

《岐阜提灯》

- 可愛くてよかった。
- 一番大きくてインパクトがあった。
- 模様が珍しい。

《セード》

- 昔、子供時代に家にあり、懐かしさを感じた。
- 色がよかった。
- 浜口雄幸のもので感動した。

《絵ろうそく》

- 柄がきれいだった。
- とてもきれいで一番印象に残った。

《絵本千代見草》

- 江戸時代の人々が光をどのように生活の中心に用いているのかが具体的にイメージできた。

《年表、パネル類》

- よくまとまっており、ルーツが理解できた。
- 無尽燈の解説パネルが視覚的で分かりやすかった。

《アセチレン燈、カーバイトランプ》

◇展示内容、方法、解説や課題について

- 光の変遷が分かりやすかった。
- あかりに関する時代の流れがわかりやすかった。
- 光に対する進歩がよくわかる。
- まるで科学館に来たような博物館展示で面白かった。
- 展示物にとっても興味がわいた。
- 色々なランプがあり、年代によつての説明も分かりやすくよかった。
- 実習生の解説がとても分かりやすかった。
- テーマが統一されている。
- 実際の物が多く置いてあつて見ていて楽しかった。
- 実際の器具などをよく集めていると思った。
- 展示に立体感があつて興味を持てた。
- 展示のストーリーが分かりやすかった。
- 丁寧な解説でより興味を持てた。
- 灯火の展示ケース、輪でくくつてあつてわかりやすくおしゃれだった。
- 産業近代化と重ねている視角。
- 「灯火」「燃灯」「電灯」をもっと目立たせて表現すればより良かった。
- 最初に3期の違いの定義をすれば次のコーナーにスムーズに行く。
- キャプションが残念。
- 岐阜提灯の位置が低く、絵柄が見づらい。
- 江戸時代以前のあかりの歴史についても解説が欲しかった。
- 無尽燈の仕組みをもっとわかりやすくして欲しい。
- 各種ランプの展示について、できれば実際の点灯方法も知りたかった。
- 台ランプが梱包材そのままの状態で展示されていた。もう少し美しく展示してほしい。
- 実際の部屋の大きさにモデルの展示内容を再現してほしい。ランプ類の光の違いも再現できた。

らしい。

【考察】

本展示の共通項目の評価は、ほとんどの人が3以上だった。おおむね高評価だったように思う。ただ、見やすさに1をつけている観覧者も見受けられる。キャプションが小さい、または遠いと思われたのではないかと。また、共通の4項目のうち、展示の解説の項目で、3をつけた人が他の3項目よりも多い。より良い展示にするために、展示解説に改善点があることが見受けられる。

班独自の項目でも、高評価を得ることができたと思う。しかし、日本のあかりに対する理解度を尋ねた項目は、5段階評価をつける設問の中で無回答票が最も多かった。もう少し具体的な質問にすれば答えやすかったのではないと思う。

自由記述欄に目を向けると、行燈のあかりとLED電球のあかりを見比べる模型の展示が印象に残ったという人が多かった。実習中にも多くの人に感心してもらえたので手応えはあったが、1票だけ1に丸を付けている人がいた。理由は書かれていなかったが、改善する余地があるということを実感した。当展示のメインとしておかれた無尽燈も多くの票をいただいた。しかし、模型の票には及ばなかった。メインに据えるのであれば、もう少し印象に残るような展示方法や照明、解説をしたほうが良かったかもしれない。

行燈や提灯、ランプ類の実物展示は、展示品の大きさと数によるインパクトがあり、満足度が高かったように見える。また、アセチレン燈や「電灯」のあたりでは、昔実際に使っていたという年配の方の話を多数聞くことができた。これらの壁側の大ケース内にある展示品については、印象に残っているという意見が多数見受けられたが、覗きケースのなかのものでコメントをいただいたのは「絵本千代見草」と「絵ろうそく」だった。覗きケースの中に展示していた他の絵や、灯明皿やたんころ等の展示方法や解説も改善点が見られる。大ケースの中の展示品にも、「実際の点灯方法を説明してほしい」などの意見が寄せられ、さらに良くなることができたのではないと思う。

班員の解説については、「わかりやすい」や、「丁寧な解説だった」など、ありがたいことにプラスの評価が書かれていた。年表や無尽燈の構造について書かれたパネルも高評価が多かった。ただ、無尽燈の解説をもっとわかりやすくして欲しいといった、さらなる改善を求める意見も一部あった。また、江戸時代以前のあかりの説明などの、展示領域外のより深い知識を求める来館者もいらしかった。このような意見から、自分たちの展示が果たして本当に分かりやすい展示だったのか、また、自分たちの展示にかかわる知識をしっかりと来館者に伝えることができているのか、などを考え直す必要があるのではないと思った。先述した解説の3をつけた人の多さからもこのことが見えてくる。

以上のように、あかり班の展示としてはまだまだ多くの問題点や改善点があることが分かった。準備不足による直前のつめこみなどがひびいたのではないと思う。マイナスの意見は素直に受け止め、試行錯誤しながらいい展示になるようにするという姿勢が大事だと思う。一方で、多くの高評価をいただくこともできた。理解が深まるとアンケートに書いてくださった方もいらしかった。この展示が成功かと聞かれれば、自信をもってそう言い切れるかは分からないが、この経験と達成感を糧に将来につなげていきたい。

(文13-254 久保田敦士)

旅人のすがた ～江戸から昭和～

【要約】

展示の内容、見やすさ、解説、雰囲気的全設問を通して、平均で4（ややよい）以上の評価が得られたが、一方で3（普通）以下の評価が内容で約12%、見やすさで約17%、解説で約17%、雰囲気で約11%と反省点も多くなった。特に2（やや悪い）の回答が目立った、見やすさと解説についてはよく反省し、改善点を探る必要がある。班別項目では、普段の旅行の頻度をたずねたが、半数以上の方が、半年に1回以上、旅行に行っていることがわかった。自由記述では、「江戸の旅人の展示が印象に残った」や「ルイ・ヴィトンのスーツケースが特に印象に残った」のように展示内容について、偏りなく各章それぞれに感想が見られた。体験型展示については「触れたり、聴けたり、全身で展示を楽しめたのでよかった」といった意見が見られ、ある程度楽しんでいただけたように思う。

展示方法に関しては「キャプションの字が小さすぎて見にくい」「展示全体のコンセプトがわかりづらい」など、やはり見やすさや展示の統一感の点で指摘が多かった。文字の大きさなど来館者に対する配慮が行き届いていなかったことが反省点である。

【方法】

全体の共通項目として展示について、「内容」、「見やすさ」、「解説」、「雰囲気」の4つの観点について、5段階での評価を求めた。また班の個別自由設問として、選択型設問で「普段の生活での旅行の頻度」について、自由記述型設問として、「一番印象に残った展示とその理由、その他展示に関する意見や感想」をたずねる設問を設け、回答を求めた。

【結果】

[1] 共通質問項目について

質問内容は、(1) 展示の内容について (2) 展示の見やすさについて (3) 展示の解説について (4) 展示全体の雰囲気について

点数評価、5：とても良い 4：やや良い 3：普通 2：やや悪い 1：悪い

表1 共通項目についての評価と平均値、有効回答者数

質問 \ 点数	5	4	3	2	1	無回答	合計	平均 (無回答除く)	有効 回答者数
(1) 内容	135人	82人	28人	1人	0人	89人	335人	4.43	246人
(2) 見やすさ	134人	71人	38人	3人	0人	89人	335人	4.41	246人
(3) 解説	130人	73人	37人	4人	0人	91人	335人	4.40	244人
(4) 雰囲気	141人	76人	25人	2人	0人	91人	335人	4.46	244人

共通質問項目の回答割合

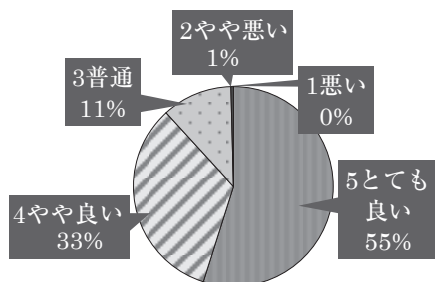


図1 展示の内容について

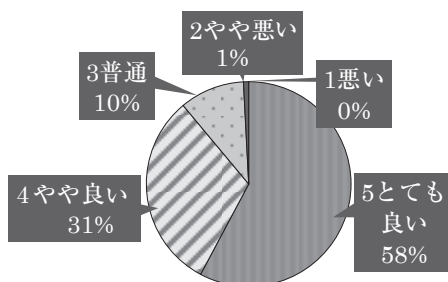


図2 展示の見やすさについて

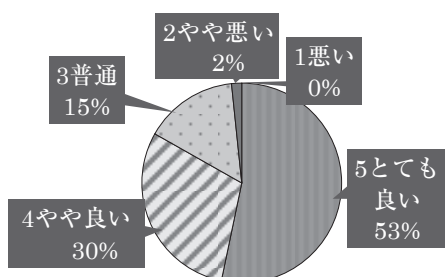


図3 展示の解説について

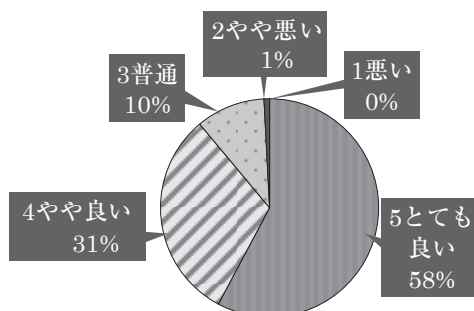


図4 展示の全体の雰囲気について

[2] 班別選択型設問について

質問内容は「普段、どのくらいの頻度で旅行されますか。あてはまる数字に○をつけてください。あてはまるものがない場合は、その他の部分で頻度をお聞かせください。」

選択肢は、1、月に1回程度 2、半年に1回程度 3、年に1回程度
4、ほとんどいかない 5、その他（自由記述）

表2 班別自由設問「普段の生活での旅行の頻度」についての回答結果

	1、月に1回程度	2、半年に1回程度	3、年に1回程度	4、ほとんど行かない	5、その他（自由記述）	無回答	合計	有効回答者数
旅行の頻度	29人	94人	65人	45人	6人	96人	335人	239人

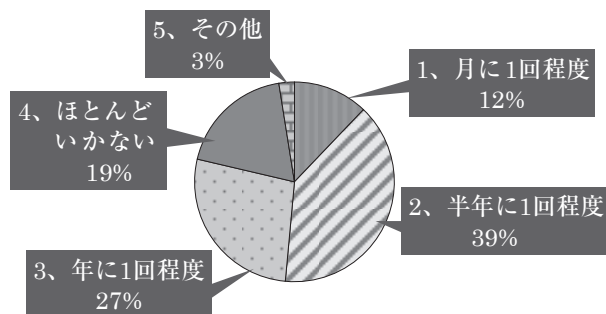


図5 旅行の頻度について

[3] 班別自由記述型設問について

自由記述として、一番印象に残った展示とあればその理由を、または展示に関する意見・感想を回答してもらった。回答数は全部で134人。

アンケートの最後部に設けていたので、「旅人のすがた」班だけでなく、他の班や実習展の展示全体の感想や意見なども見られた。以下より転記した回答の一部を示す。

○一番印象に残った展示についての回答

1章について

- ・伊勢参りに関する資料が興味深かったです。
- ・江戸時代の旅行のガイド本はおもしろいと思いました。詳しく説明してくださったので、とても参考になりました。解説されているのもよく分かり照明もよく配慮されていました。
- ・名所図会、旅行用心集、道中記、奈良名所図 江戸時代における旅行文化と出版文化の発展と到達点をイメージ豊かに理解することができました。
- ・江戸の旅人の展示が当時の民衆の姿を身近に感じられて印象に残った。
- ・伏見人形が解説などをとても詳しくしてくださったのでとても印象に残った。
- ・都名所図会が興味深かったです。トランクも機能性を備えており、考えられて作られていると思いました。解説が丁寧で良かったです。
- ・旅姿のパネルは、良くまとまっていた。TVで時代ゲキを良く見るが、旅人が身につけている各パーツの意味がわからなかったが、今回理解できた。
- ・持ち主の貼紙のあるおいせまいりに出るとき用の帳面が当時の感じをすごくよく表しているのが良かったです。
- ・旅行に携帯用の地図が左右逆になっているのでおもしろかった。むしろ今の日本地図が逆なのかな～
- ・お伊勢参りの展示 疲労回復方法とかが書いてある本（旅行用心集）が江戸時代の人を身近に感じられて良かったです。

2章について

- ・旅人の展示……関大創設者の方が使った、ルイ・ヴィトンのトランク、あまりに大きくてびっくりしました。実物等を直接目にふれることが出来、良かったです。
- ・キャリーバックとパスポート、マクノール錠が印象に残った。キャリーバックに小さいコロコロがついていて驚いた。
- ・ルイ・ヴィトンのトランクが200万円したことを教えてもらってビックリした。
- ・日本国旅券がとても興味深く、印象に残りました。昔の旅券を見る機会がなかったので、今回展示されていてうれしかったです。
- ・大きなトランクと皮の鞆です たくさんの荷物は今と一緒にですね、江戸時代の旅のとてもコンパクトで実用性には見習わなくては……。
- ・関西法律学校の創立者の一端にふれることができ満足しました。私も関大卒。なかなか面白い企画でした。又企画されることを楽しみにしています。

- ルイ・ヴィトンのスーツケースが特に印象に残った ブランド物に最近興味があるので、こういった形で見られて本当に良かった。
- ルイ・ヴィトンのトランクは思わぬ所で、関西大学に関わりのある展示品であったので印象に残りました。
- 展示はルイ・ヴィトンのかばん。展示ではないが解説が一番印象に残った。すごくおもしろかった。
- ルイ・ヴィトンのトランク。大きさ・トランクの持つ歴史とも、非常に印象的であるため 各時代にストーリー性があり、興味深かった。

3章について

- 服装やミックスランチなど、日本のものと外国のものをまぜこむのが面白かった。
- ハワイ移民 日本文化の度合いと移民先の文化の交流 独自性を感じるもので。
- 移民の展示が印象に残っています。ブラジルに日系人が多いのは知っていたのですが、その背景を知らなかったで、「どういった経緯で移民が行われ、「その地が移っていったのか」が知ることが出来私自身勉強になりました。
- ハワイ、ブラジルの移民の展示 解説が大変分かりやすかったです。長時間説明ありがとうございました。
- “移民”を旅人として捉える視点が面白かった。
- 移民についての展示 日系移民のことを良く知らなかったから。
- 移民に関する展示が印象に残った。
- 移民に視点を当てているところがおもしろかった。次の章のファッション化していく旅とのギャップが楽しかった。
- ハワイのお弁当が興味深かったです。
- ミックスプレートがおもしろかったです。

4章について

- 雑誌の展示が意外で面白かったです。都道府県での外国への移住のランキングも興味深かったです。
- 旅を題材にしたヒットソングが馴染み深かったです。
- 江戸時代にとどまらず、移民や女性の旅行について触れられていたのが印象的でした。
- 山口百恵の「いい日旅立ち」です。ちょうど大学を卒業して私自身よく旅行に行き始めた頃流行っていたので、とても懐かしいです。ツアー、パック旅行の発達や海外でかつて不評だった農協の旅行等も取り上げたらよいと思います。
- 「ファッション化する旅行」のケースがやはりなじみのあるものばかりだったので印象に残りました。
- 70年代の旅行ブームの火つけとなったアイテムの展示が見られて良かった。旅行のイメージはその時代により様々と分かりました。
- ananやnonnoなど今もある雑誌が、身近なもので、興味を持ちやすく印象に残った。

- ananって旅行雑誌だったってことに驚き。
- 第4章女子旅の話が面白かった。

○展示内容や展示方法についての意見、感想

- 一つのテーマをほりさげてもらったら、もっと分かりやすかったかもしれません。
- 全体的に、もう少し説明の文字が大きいほうが見やすいかな、と思いました。(部屋もくらいので)
- 今年は例年より深みがなかったように思う(どの展示も)上辺だけのようで物足りなかった。余りテーマと関係ないものもあり、その分資料をふやすのがベターでは。
- 展示全体のコンセプトがわかりづらかったです。江戸時代の物見遊山を兼ねた旅と商用旅行、そして移民先への旅を同列にするのには違和感を禁じえませんでした。江戸時代にも商用、移動(領地からの流出)の旅があるので、比較するならそちらも入れるべきかと思います。また、大阪の大学での展示なので、大坂の名所図会の展示もあれば、より良かったかと思います。
- 解説の字が小さすぎる。
- トランクの大きさ、重量も知りたかった。
- もう少し説明書きがほしいと思った。
- 印籠の説明文の字が小さく読みづらかったです。
- 章パネルは見やすかったが、作品解説の字が小さくて年寄りにはしんどいかも。
- キャプションの字が小さい気がした。展示品が多く内容は見応えがありよかった。
- どの展示も魅力的で分かりやすかったと思います。展示を見る流れがあるとしたら、順番などを明示していただけると良かったと思います。
- 展示は面白かったけど、キャプションの字が小さくて見にくかったのが残念
- 3・4章のケースに入った展示品が多くて少し見にくかったように感じました。
- 絵図などもっとしっかりよみたい。
- 旅がしたくなりました。
- 旅行大好きなので、とても興味深く見ました。明治のことをもっと知りたい!もっとテーマをしぼったらよかったかも(伝えたいことがいっぱいある気もちが伝わってきました)、さわれたり、聴けたりも楽しかったです。
- 全体的におもしろかった。ある特定の人物に関連させて展示していたり流行であったり分かって、とてもよかった。
- 時代のうつりかわりも含めていろいろな旅があるということがうまく展示されていたと思います。今後考えていかなければならない、移民をどう受け入れるべきかという問題にもつながっているところに感心しました。
- 実物があったり、触れたり、聴けたり、全身で展示を楽しめたので全てを通して良かったです。
- さわれる展示が印象的でした。
- 旅人のすがたが一番印象に残りました。どのブースも良かったです、一番面白いと思えたからです。
- バックパッカーをしようと思っているので旅にも歴史があるのだと気づきました。もっと調べ

てみたくなりました。ありがとうございます。

【考察】

○共通質問項目について

全体的には評価点は4.4点前後とある程度高いように見える。しかし、中でも見やすさと解説の評価の低さが目立っている。見やすさについては、キャプションや解説文の字の小ささが大きな理由だと思われる。本展示は4章構成になっており、各章で展示物が多いため、ケースの大きさもあり、キャプションの字が非常に小さくなってしまった。展示構築の際に文字が小さく高齢者には読みにくい可能性があるとは認識していたが、実際に実習展が始まると、高齢者だけでなく、10代・20代の来館者からも、文字が小さくて見にくいという指摘が数多くあったことから、文字の大きさ、展示の見やすさという点では、完全に問題がある展示になってしまった。改善のためには、展示計画段階から、何を展示で伝えたいのかをもっと練り上げ、展示物の数や内容を絞り込んで、誰もが見やすいキャプション・解説パネルの文字の大きさや配置をしっかりと考える必要がある。

解説についても、班員のほうからの声かけが少ない、来館者の質問に答えられない、集団解説がうまくできないなどの反省点が目立った。展示についてもっと入念に勉強・準備し、来館者の疑問にちゃんと答えられるようにしておき、来館者が満足してもらえるようにする必要がある。見やすさや解説だけでなく、内容で1人、雰囲気でも2人が「2やや悪い」という評価をしており、展示のコンセプトをもっと明確にすべきではないか。動線を意識したケース配置とわかりやすい順路作りをするなど 展示全体についても反省点・改善点は多くある。

○班別項目について

普段の生活での旅行の頻度について

1ヶ月から、半年に1回以上旅行に行く人が、合わせて51%と約半数であり、年に1回も含めると約8割という結果がでた。その一方でほとんどいかないと答えた人も19%おり、旅行の頻度には個人差があることが伺えるが、全体的な傾向として、人々にとって旅がより身近な存在になっているといえる。

一番印象に残った展示とその理由について

246人中134人、約50%の回答率であった。レイ・ヴィトンのトランクの回答がダントツで多いと予想しており、やはり一番回答が多かったのはレイ・ヴィトンのトランクだったが、突出して多いわけではなく、ほぼ同数で江戸の名所絵図や御伊勢参りに関する展示、また移民のミックスプレートや、anan、旅に関するCDも挙げられており、展示全体を通して幅広い回答が出た。今回の展示のコンセプトのひとつに、「来館者の方に何か1つの章でも気に入った展示を見つけて、楽しんでもらいたい」という狙いは、回答の結果から成功したといえる。

○アンケート全体について

アンケート対象者335人中およそ90人約27%、全体の4分の1が無回答という結果となり、無回答が多くなってしまったことが残念であり、来場者の意見がすべて反映された結果が出たとは言

いがたい。これは来場者がアンケート表面だけ回答し、裏面に気づかなかった可能性があるので、今後はアンケートを手渡す際に裏面があることを告げるなど、アンケート自体の裏面の表示をもっと目立たせるなどの工夫が必要である。また、自由記述の部分に実習展全体や、他班の感想が記述されているもの、設問文をもっとアンケート自体の文字が小さくて見にくいとの意見もあり、見やすく回答してもらいやすいアンケートの様式を考えていかななくてはならない。

(文13-449 中谷一陽)